



ノダグループは、木を活用した心地よい空間づくりによって社会に貢献しながら、着実な成長を目指します。

代表取締役社長

野田 励

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、ここに当社グループの第88期中間連結会計期間(2024年12月～2025年5月)の営業の概況等につきまして、ご報告申し上げます。

2025年8月

営業の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、物価上昇の影響などから個人消費に弱さが見られたものの、雇用・所得環境の改善などを背景に景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、深刻化する人手不足、不安定な為替相場、米国の対外政策の動向、地政学リスクの高まりなど、依然として先行き不透明な状況が続きました。

住宅業界では、建築費高騰や職人不足などの影響から需要の低迷が続きました。期初から低水準で推移していた新設住宅着工戸数は、2025年4月1日の法改正(建築基準法、建築物省エネ法)前に起きた駆け込みの反動で4～5月は大幅減となり、当中間連結会計期間では総戸数5.3%減、比較的堅調に推移していた貸家も1.5%減となりました。また、合板については本格的な荷動きの回復には至らなかったものの、国産針葉樹合板の販売価格は、前期までの下げ局面から期初を底に緩やかながら回復が進みました。

このような厳しい事業環境において当社グループは、内装建材シリーズ「カナエル」や構造用面材「HBW」などの拡販に注力し、新規顧客の獲得や既存顧客との取引深耕を図りました。また、合板やMDF(中質繊維板)など素材については、引き続き需要動向を注視しながら仕入・生産を行い、コストに見合った適正な販売価格の設定に努めました。さらに、原材料や製造工程の見直し、販促活動の合理化、配送効率の向上、固定費のコントロールなどコストダウンや生産性向上の徹底に取り組みました。しかしながら、長引く住宅需要の低迷により販売量が伸び悩むなか、原材料・副資材価格、物流費、電力料などの上昇もしくは高止まりに加え、合板の販売価格が前年同期を大幅に下回ったことから、収益性は著しく低下いたしました。

この結果、当中間連結会計期間における経営成績は、売上高31,995百万円(前年同期比2.9%減)、営業利益32百万円(同95.1%減)、経常損失100百万円(前年同期は経常利益692百万円)、親会社株主に帰属する中間純損失367百万円(前年同期は親会社株主に帰属する中間純損失1,645百万円)となりました。

●セグメント状況●

<木質建材事業>

木質建材については、省施工、高意匠、バリアフリーなどお客様の多様なニーズにお応えすべく、内装建材シリーズ「カナエル」を主軸とした販売に引き続き注力いたしました。また、木造集合住宅等における生活音対策として、軽量・重量いずれの床衝撃音も低減する木造遮音・防火工法「シャーン」の提案を強化し、材工(施工付き販売)の拡大や防音フロアの拡販も図りました。MDFについては、2025年4月施行の改正建築基準法等による建築物の省エネ化や構造計算に関する規制強化を踏まえ、各種セミナーの開催等により耐震性能や透湿性能に優れた「HBW」(構造用ハイベストウッド)の提案に引き続き注力いたしました。さらに、当中間連結会計期間より連結範囲に含めた(株)アリモト工業との営業・施工分野でのさらなる連携強化を図りました。

これらの取り組みによって、新築戸建市場におけるシェア拡大に加え、貸家市場やリフォーム・リノベーション市場、高齢者施設や公共・商業施設など非住宅市場のさらなる開拓を推進いたしました。

この結果、木質建材事業の売上高は19,902百万円(前年同期比1.5%増)、セグメント利益は442百万円(同264.8%増)となりました。

<合板事業>

合板については、国内需要が依然として弱含みで推移するなか、国産・輸入いずれも、販売量は前年同期と比べ増加したものの本格的な回復には至らず、また、販売価格は前年同期を下回りました。

下落幅の大きかった国産針葉樹合板については、引き続き生産調整を行い、適正な販売価格の設定と在庫水準の維持に努めた結果、販売価格は緩やかな上昇傾向となりました。輸入南洋材合板は、需要の低迷により仕入コスト高を販売価格に転嫁できず、低採算の厳しい状況が続きました。

この結果、合板事業の売上高は12,093百万円(前年同期比9.4%減)、セグメント利益は341百万円(同76.5%減)となりました。

配当について

当期の中間配当金につきましては、これらの業績や配当の基本方針等を総合的に勘案し、1株につき18円(前期の中間配当金に比べ、4円50銭の減配)とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第88期中間期 営業報告書

株式会社ノダ

証券コード: 7879

ビジョン2030

木の心地よさを住まいから様々な空間へ

ノダグループは、持続的に成長し社会に貢献する企業であり続けるため、以下の通り経営理念を定めます。

【企業理念】

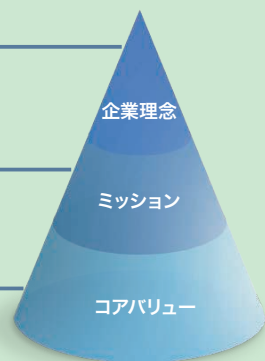
主体的に価値創造に挑戦することにより個の成長を促し、さらなる社会貢献を実現できる企業を目指します

【ミッション】社会に果たすべき使命

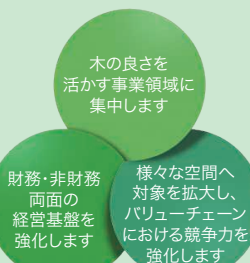
- 木の良さを活かして快適な空間創造に寄与します
- 木をムダなく使い、持続可能な森林循環に貢献します

【コアバリュー】理念実現のための共通の価値観

共生・誠実・しんか(深化・進化・伸化・新化)



【ビジョン2030実現のための経営戦略】



【理念実現のための基本姿勢】



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

ノダは、持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

～木をムダなく使い、持続可能な森林循環に貢献～

私たちは、自らの事業を通じて、SDGsの17ある開発目標のうち以下の目標を達成するために、グループをあげて取り組みます。

11 住み続けられるまちづくりを



目標 11

「住み続けられるまちづくりを」

誰もが幸せに住み続けられるまちをつくるために、ノダは「サステナブルな木造建築の実現」「エコロジー部材の提供」を通じて安心・安全に暮らせる空間づくりに努めてまいります。

12 つくる責任 つかう責任



目標 12

「つくる責任つかう責任」

持続可能な生産と消費を確保するために、ノダは「木質資源の製品・用途開発」「循環型の木質資源の活用」「廃資源もムダなく使いこなす」に努めてまいります。

13 気候変動に具体的な対策を



目標 13

「気候変動に具体的な対策を」

気候変動の原因となる温室効果ガス(主に二酸化炭素)を削減するために、ノダは生産工場におけるエネルギー効率向上はもとより、太陽光発電などグリーンエネルギーの利用や再生可能エネルギーの利用などにより、地球温暖化防止に努めてまいります。

15 陸の豊かさも守ろう



目標 15

「陸の豊かさも守ろう」

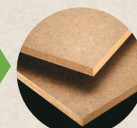
森林循環に貢献するために、原木生産者の安定販売先としての受け皿になるとともに、自社保有林での伐採後の植林を進め、木質資源の価値創造に努めてまいります。

1. MDFを製造

再生資源・未利用資源である廃木材のチップを繊維化・加熱・圧縮してエコ素材のMDFを製造しています。優れた構造強度や高い耐久性を持っている高耐水MDF(構造用ハイベストウッド)により、より快適な住まいを実現できます。



加熱圧縮



木質チップを木材繊維へ

エコ素材MDF

地震に強い
壁倍率
4.0倍

構造用ハイベストウッド(MDF)施工例

2. 国産材を使用

日本で育てられた木を積極的に使用しています。循環型資源形成を目指し、環境保全、CO₂の削減、資源保護に貢献しています。

国産針葉樹合板

3. 間伐材を使用

間伐によって木はまっすぐ充分に成長し、森林に水源かん養機能の向上や土砂崩れの予防など様々な効果もたらされます。国産針葉樹合板やMDFの原料として間伐材を積極的に利用することで、間伐材の安定した受け入れ先となり、健全な森林の整備の促進に貢献しています。



適度な光が差し込み木々の健全な生育環境が保たれます

4. 安全に暮らせるまちづくり

合板の製造過程で発生する芯材(丸太の剥き芯)を、防潮堤の資材として海岸防災林の再生に活用いただくことで、自然災害のリスクを低減させ、より安全に暮らせるまちづくりに貢献しています。



防潮堤



芯材使用状況



～自分らしい「住まい」をCanaeru～

「より快適で、オリジナリティのある住まいを追求したい」というご要望に応えられる内装建材シリーズ。

多様化するライフスタイルに合わせたテクスチャーとカラーで、あなたらしい空間をご提案します。



さまざまなライフスタイルに快適にマッチするデザイン



木材のぬくもりが溢れるデザイン



個性的な空間を演出するデザイン

～シャーオン（木造遮音・防火工法）～

旭化成建材、オーシカ、ノダの三社共同開発新工法で気になる「生活音」を大幅カット。

重量・軽量床衝撃音などの生活音・ペットの動き回る音に対応し、床からの音が気になりにくい快適な住空間をご提供します。

- 高い遮音性能による快適な居住空間の提供
- 防火性能による安全性の向上
- 施工の容易さと工期短縮によるコスト削減



ノダ対応フロア



カナエル R防音45



カナエル C衝撃吸収フロア VC

～アリモト工業の連結子会社化～

当社グループは、子会社の株式会社アリモト工業を2024年12月より連結の範囲に含めました。今後、グループ内での連携をさらに深めながら、非住宅分野の事業拡大を目指してまいります。

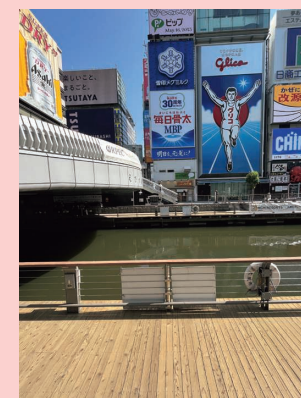
●事業内容

木製外構構造物の設計・施工・製造・販売・メンテナンス等

施工例



熊本城特別見学通路
(熊本県熊本市)



道頓堀(大阪府大阪市)



FUJIMI CAFE
(静岡県御殿場市)



天理駅前広場(奈良県天理市)



Walkable City Shibuya計画
(東京都渋谷区)

連結財務諸表(要旨)

会社概要・株式情報 (2025年5月31日現在)

連結貸借対照表 (単位:百万円)

科 目	第88期 中間期末 2025年5月31日現在	第87期 前期末 2024年11月30日現在
資産の部		
流動資産	45,204	47,180
固定資産	27,892	27,002
有形固定資産	17,622	16,561
無形固定資産	366	349
投資その他の資産	9,904	10,090
資産合計	73,097	74,182
負債の部		
流動負債	23,332	25,535
固定負債	11,370	9,725
負債合計	34,702	35,260
純資産の部		
株主資本	30,586	31,259
資本金	2,141	2,141
資本剰余金	1,587	1,587
利益剰余金	28,032	28,705
自己株式	△ 1,174	△ 1,174
その他の包括利益累計額	2,491	2,249
非支配株主持分	5,316	5,412
純資産合計	38,394	38,922
負債純資産合計	73,097	74,182

連結損益計算書 (単位:百万円)

科 目	第88期 中間会計期間 2024年12月 1日から 2025年 5月31日まで	第87期 中間会計期間 2023年12月 1日から 2024年 5月31日まで
売上高	31,995	32,962
売上原価	25,503	25,865
売上総利益	6,491	7,097
販売費及び一般管理費	6,458	6,436
営業利益	32	660
営業外収益	70	106
営業外費用	202	75
経常利益又は経常損失(△)	△ 100	692
特別利益	3	2
特別損失	111	80
税金等調整前中間純利益又は 税金等調整前中間純損失(△)	△ 208	614
法人税、住民税及び事業税	125	415
法人税等調整額	△ 11	1,662
中間純損失(△)	△ 322	△ 1,463
非支配株主に帰属する中間純利益	45	182
親会社株主に帰属する中間純損失(△)	△ 367	△ 1,645

会社の概況

会 社 名 株式会社ノダ
本 社 東京都台東区浅草橋5丁目13番6号
設 立 1938年1月8日
資 本 金 21億4,100万円
従 業 員 数 1,044名(連結1,785名)

役員

代表取締役社長	野 田 励	取 締 役	渡 邊 慎 也
代表取締役専務	野 田 四 郎	社 外 取 締 役	塩 坂 健
常 務 取 締 役	高津原健太郎	社 外 取 締 役	高 井 章 光
取 締 役	宮 田 佳 明	常 勤 監 査 役	長谷川倫源
取 締 役	良 知 正 啓	社 外 監 査 役	三 浦 悟
取 締 役	新 美 泰	監 査 役	上 原 敏 彦
取 締 役	天 岸 知 樹	社 外 監 査 役	春 山 直 輝
取 締 役	服 部 裕 仁		

営業拠点

北海道(札幌市)、旭川、帯広、青森、北東北(盛岡市)、東北(仙台市)、郡山、東京(台東区)、千葉、柏、埼玉(さいたま市)、高崎、宇都宮、茨城(水戸市)、横浜、厚木、西東京(八王子市)、甲府、新潟、長野、静岡、沼津、浜松、名古屋、三重(鈴鹿市)、三河(岡崎市)、岐阜、北陸(金沢市)、大阪、京奈(京都市)、兵庫(神戸市)、中四国(広島市)、北九州、大分、福岡、長崎(諫早市)、熊本、宮崎、南九州(鹿児島市)、沖縄(那覇市)、他

ショールーム

東京都台東区、仙台市、横浜市、静岡市、名古屋市、大阪市、福岡市

工場

静岡県静岡市、静岡県富士市

連結子会社

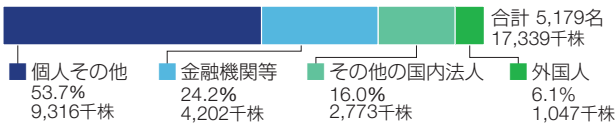
石巻合板工業株式会社	：宮城県石巻市
アドン株式会社	：静岡県静岡市
株式会社ナフィックス	：東京都台東区
アイビーエムサービス株式会社	：宮城県石巻市
株式会社アリモト工業	：鹿児島県鹿屋市
PT. SURA INDAH WOOD INDUSTRIES (スラインダー社)	
：インドネシア	

持分法適用関連会社

SANYAN WOOD INDUSTRIES SDN. BHD.(サンヤン社)
：マレーシア

株式の状況

発行済株式の総数 17,339千株(自己株式1,683千株を含む)
株 主 数 5,179名



株主メモ

事 業 年 度 12月1日から翌年11月30日まで
定時株主総会 2月
基 準 日 定時株主総会 11月30日
期 末 配 当 金 11月30日
中 間 配 当 金 5月31日
そのほか必要ある場合は、あらかじめ公告して定めます。
単 元 株 式 数 100株
株主名簿管理人 みずほ信託銀行株式会社
事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号
公告掲載新聞 日本経済新聞

《株式に関する手続きのお申し出先について》

●証券会社等へ当社株式を預けたいだいている場合
当社株式をお預けいただいている各証券会社等にお申し出下さい。なお、未払配当金の支払い、支払明細発行については、下記「みずほ信託銀行株式会社」の郵便物送付先、電話お問合せ先、お取扱店をご利用下さい。
●証券会社等へ当社株式をお預けいただいていない場合(特別口座)
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先／電話お問合せ先)
〒168-8507東京都杉並区和泉2丁目8番4号
電話 0120-288-324(フリーダイヤル)
(お取扱店) みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店(※)
(※)トラストラウンジではお取り扱いできません。

ホームページ、公式SNSのご案内

ノダの最新情報やお役立ち情報をご提供します

ノダ ホームページ

公式Facebook

@NODA_corporation

公式Instagram

@noda_corporation

ホームページ : <https://www.noda-co.jp>
Facebook : <https://www.facebook.com/NODAcorporation/>
Instagram : https://www.instagram.com/noda_corporation/

